

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

東北 大学

前期日程

科目

国語(現代文)

試験時間	120分	満点(配点)	文400点・経済200点 法・教育300点	出題数	現代文 2題、古文 1題、漢文 1題
------	------	--------	--------------------------	-----	--------------------

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

第一問はタイトルが示すとおり食のコミュニケーション論である。サル・類人猿・人間の違いを説明している箇所であるが、例年と比べ読みやすい文章である。第二問は例年どおり芥川賞・直木賞関連の作家の小説からの出題である。主人公「私」の心理描写に終始している。とはいえ、心情が変化していく箇所ではないので、読みは難しいものではない。設問も大きくはずすと思われるものはない。第一問・第二問ともに文章・設問共に易化したといえる。設問形式では、第二問で漢字の読みのみが出されたこと、例年問五でよく見られる「本文全体をふまえて」という条件の設問がなかったことが目立った点である。

〈特記事項・トピックス〉

全体的な易化、全体を押さえた読解を問う難度の高い設問が見られなかったことが今年の特徴と言える。

〈合格への学習対策〉

- 文章全体の構造を把握した上での、設問箇所の理解を心がけること。
- 制限字数内での的確にポイントを入れて表現する答案作成能力の養成が必要である。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
一	評論	山際寿一『食というコミュニケーション』	内容・語彙ともに読みやすい評論である。対比関係も捉えやすいだろう。	易
二	小説	丸山健二『夜釣り』	主人公の心理描写に終始している。例年どおりに芥川賞・直木賞作家の作品である。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
一	(一)	記述(5個)	漢字書き取り。特に難しいものはない。 「何がどのような意味で」とポイントを指摘してある。前段を読めばわかるだろう。 傍線の箇所を含む段落を読めば自ずから答の方向は決まる。あとは表現の仕方の問題ということになる。 字数はあるものの前後の段落の要約に近い。難しいとはいえないだろう。 「社会的な食事」をどのように表現するかが勝負どころとなるだろう。	やや易
	(二)	記述		標準
	(三)	記述		標準
	(四)	記述		標準
	(五)	記述		標準
二	(一)	記述(4個)	漢字の読み。読めない漢字はないだろう。点差はつかない。 語意説明。(C)が表現しにくい。 単に「出来事」を記せとあるので、内面まで書く必要はなかろう。 この設問は家族への思いと私自身への思いの両方を書く必要があるだろう。 対比関係を明確にした解答作りをすること。	易
	(二)	記述		標準
	(三)	記述		やや易
	(四)	記述		やや難
	(五)	記述		標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。